

## 東日本大震災から6年 復興に向けた被災塩ビ管の回収と再利用の取組み

塩ビリサイクル排水管協会  
大水産業株式会社

### はじめに

未曾有の大震災により被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。  
また、復興に向けて頑張っておられる皆様に敬意を表します。  
当協会でも、微力ではありますが、復興に向けた被災塩ビ管の回収・再利用に取り組んでまいりましたので、活動内容をまとめさせていただきます。

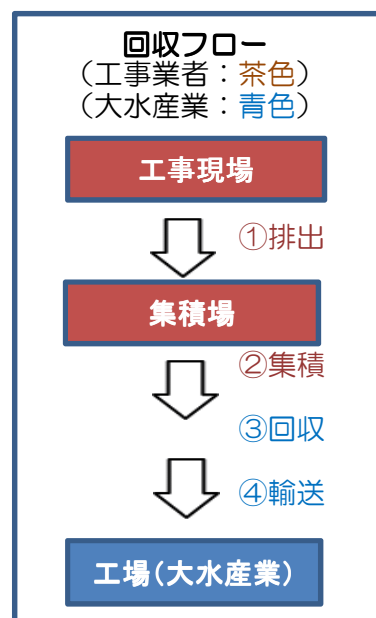
### 1. 被災塩ビ管の回収

#### 1) 回収の経緯とフロー

東日本大震災発生に伴い大量の下水道管路が被災しました。

当協会・大水産業株式会社(以下、「当社」という。)では最初に宮城県の下水道課および災害廃棄物処理課にコンタクトし、被災塩ビ管のリサイクル処理に関する提案書を提出しました。

- ①自治体発注の工事現場で、工事業者は被災塩ビ管を排出する。
- ②工事業者は、現場あるいは自治体指定の場所に被災塩ビ管を集積する。
- ③埼玉県の当社の回収車が、集積現場に出向き引き取る。
- ④当社の工場に輸送する。



#### 2) 自治体と連携しての回収



①実際の工事の発注元である宮城県内の市町村に対して、被災塩ビ管のリサイクル処理について説明に回りました。

②復旧工事の着手の早い内陸部の白石市、角田市など南部から始まり、仙台市、名取市、山元町といった津波の被害も大きかった地域なども、被災塩ビ管のリサイクル処理に踏み切ることになりました。

③更には、岩手県でも、宮古市、大槌町等でも、被災塩ビ管のリサイクル処理を行うことになりました。

白石市から当社に輸送してきた被災塩ビ管  
(2017.3.7)

### 3) 回収実績

#### ①回収の連携自治体

- ・宮城県：16自治体
- ・岩手県：4自治体

#### ②回収量(2017年2月末現在)

- ・宮城県： 1,538トン
- ・岩手県： 148トン

#### VU200換算で、259km相当です。

当社工場(埼玉県さいたま市岩槻区)から自動車  
仙台市に向かったら、福島県の「福島JCT」近傍  
まで来ていることとなります。

### 4) 自治体の事例紹介

#### (1) 白石市

内陸部でもあり、復旧の着手も早く2011年5月  
から引取りを始めました。

主に下水道管の復旧工事で排出した塩ビ管の引取  
りで、2016年度の予算化分まででほぼ復旧が完了  
したとのこと。

白石市からの総引取り量は168ト(2017年2月  
末現在)となり、VU200換算で26km相当となりま  
す。



伊達家家臣片倉家ゆかりの白石城  
(白石市HPより)



山元町にある民家風そばや「そば切り八丁 長常」  
(長常HPより)

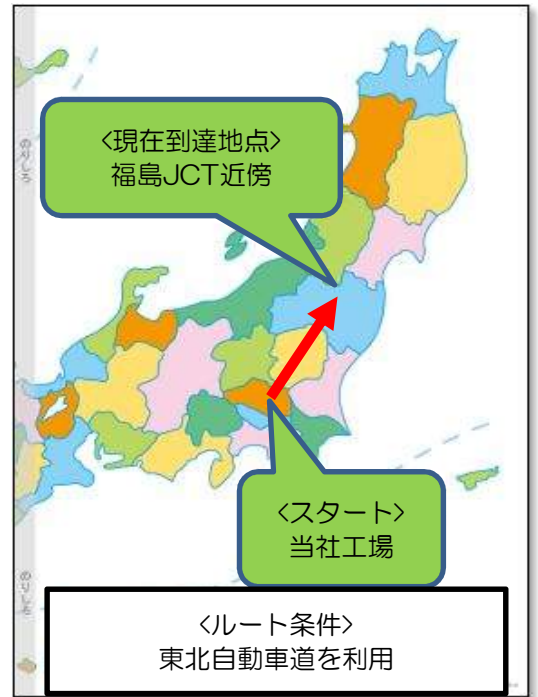
#### (2) 山元町

海岸に面しており、津波の被害もあり2011年7月か  
ら引取りを始めました。

下水道路の復旧工事で排出した塩ビ管の引取りで、  
2016年度でほぼ復旧が完了したとのこと。

今後は仮設住宅の解体による排出があるようです。

山元町からの総引取り量は164ト(2017年2月末現  
在)となり、VU200換算で25km相当となります。



## 2. リサイクル塩ビ管の使用(主に宮城県での取組み)

### 1) 宮城パイプの経緯

①宮城県から回収してきた被災塩ビ管が、会員会社の置場に次々と積み上げられていきました。

そして宮城県から排出された塩ビ管を材料として、**宮城県の災害復興工事にも使ってもらえる宮城銘柄のリサイクル塩ビ管を製造しよう**という計画が現実味を帯びていきます。

②宮城県に相談し、**宮城県グリーン製品として認定される塩ビ管**を実現させようという計画をたてました。

③当社の主要製品であるタイスイRスーパーVU,VPは再生原料を使用しながら、一般JISのK 6741の承認を受けており、国のグリーン調達の特定期目でもあります。

また今回の復興工事の牽引役でもあるUR都市機構ではすでに材料表の中にリサイクル材料から作られたJIS管を指定して、積極的にグリーン調達を進めてきていました。

④このRスーパーと同規格の塩ビ管を宮城パイプと銘打って2ブランド生み出すこととし、以前よりリサイクル塩ビ管に関心を持っていた**株式会社川本第一製作所と共進機材株式会社**がそれぞれ**Mグリーン**と**Myスーパー**というブランド名で発売、製造をJIS工場を持つ当社が受け持つこととしました。



⑤両製品は、震災から1年8ヶ月経過した**2012年11月にいち早く宮城県グリーン製品として認定**されました。



### 2) 宮城県での率先使用の働きかけ

宮城県グリーン製品に認定されても、県の工事において宮城パイプはなかなか使ってもらえず、使用促進に向け取り組んでおります。

「環境生活部環境政策課」は、宮城県グリーン製品の認定および管理を行っておられます。

当課では、グリーン製品が使用されるよう、「県の工事請負人が、率先して使用すべきグリーン製品を確認する」ための、「グリーン購入に関する取組チェックリスト」をサイト上に掲載しています。「環境政策課」に、チェックリストの活用が進む取組みをお願いしています。

また、宮城パイプを使用する工事の発注部署である「土木部」にも、率先使用をお願いしています。



### 3)使用事例

#### (1)名取市

名取市では東日本大震災により、沿岸部を中心に極めて甚大な損害を被りました。多くの被災者が仮設住宅等での生活を余儀なくされておられます。

市では、安全で安心できる良好な居住空間を備えた災害公営住宅の整備を急いでいます。

海岸に近い閉上(ゆりあげ)地区では、土地を嵩上げしての、「集合災害公営住宅整備事業」が、第1期・第2期と進められております。第1期分に2017年になってからも、宮城パイプを納めています。



第一期の建設工事開始(2015年12月)  
(名取市HPより)



第一期の一部入居開始(名取市HPより)

#### (2)東松島市

東松島市は海岸にも近く、東日本大震災による津波で大きな被害がありました。16の地区・住宅で災害公営住宅の建設が進められています。すでに入居済みのところもありますが、これから建設予定の野蒜北部丘陵地区でも2016年から宮城パイプを納めています。



野蒜北部丘陵地区(東松島市HPより)



野蒜北部丘陵地区災害公営住宅 (建設中)